

## ドイツ バイエルン州 ブルックミュール高校 重野 さん

留学期間 R1.9～R2.3（1年間）

## 1 留学の成果

今回の留学で学んだことは、価値観の違いです。例えば、日本では他人に対して誰にでも親切にすることは当然のことですが、ドイツでは少し違うということが分かりました。私は友達に席を譲ってあげようと思いました。他の子達は、“そこまで親切にしないでいいんだよ！座っていればいいんだよ！”と私に言いました。それに対して、私はものすごく驚きました。友人同士での席の譲り合いは珍しいかもしれませんが、私には、その子が席に座りたそうにしていたので譲ろうと思ったのですが、手を引っ張られ、座っていればいいよと戻されました。席の譲り合いは日本でよくあることなので、私には驚きでしかありませんでした。また、電車の中で、近くにお年寄りの方が立っていたので、立ち上がって譲ろうとしたのですが、ホストシスターに“優しすぎじゃないのか？”と言われ、“お年寄りの方に席を譲るのは当たり前じゃないの？！”と内心思ったできごともありました。これらのことにも、日本人とドイツ人との考え方の違いが表れているようにも思いました。

また、学業面でも改めて実感することがありました。それは、語学の学習法です。日本では書く勉強が中心で、話すという機会がほとんどありません。だから、書くことは得意でも、いざ話すとなるとなかなか話せないのが日本人です。実際、英語が上手く話せないという言葉は日本人の友人からよく聞きます。でも、ドイツだけとは限らないとは思いますが、ドイツの人々は、書くよりも話すことを重視した学習法で勉強していました。書けることも大切ですが、話せることの方が大切なのだと思います。言葉は話すことによってすぐに身につけ使えるようになります。また、他の子が知っていて自分が知らなかった単語を会話の途中で聞くことができますし、それによって自分の単語のレパートリーを増やすことができます。書く練習はどの国も同じで、ひたすら書いて練習でした。日本人は書くことはできても、話すことができないと言われてしまいます。だから、海外のように、話す学習法をもっと取り入れるべきだと留学中に感じました。

生活面でも色々な発見がありました。ドイツの人々は、休日は家族で過ごす時間を大切にしています。例えば、日曜日は必ずと言っていいほど家族全員で朝食をとります。日本では土日も働く人々が多いですが、ドイツの人々はゆったりとした時間を過ごしながらかつ充実した毎日を送っているように思いました。

日本は、時間の面など色々なことに対して厳しい国だと感じます。それは、時には良いことかもしれませんが、逆に悪影響を及ぼしてしまう可能性もあると思うので、ドイツのようにたまにはゆったりとした生活を送ってもいいのではないかと、苦笑いしながら思うこともよくありました。

## 2 履修状況、課外活動等

### (1) 履修科目

- ・ドイツ語
- ・数学
- ・英語
- ・生物
- ・地学
- ・社会科
- ・ドイツ史
- ・体育
- ・道徳

## 3 今後の活動予定

将来は国際関係の職業、もしくは英語やドイツ語など外国語を使う職業に就きたいと思っています。また、高校卒業後は、外国語大学、国際関係について学べる大学（国際経済、国際政治など）に進学したいと考えています。

## 4 記録写真



ホストファミリーとオーストリアにスキーに行った時の写真です。

天気がとても良く、雪もふかふかで、とても滑りやすかったです。

ホストファミリーとクリスマスパーティーをした時の写真です。

アメリカに住んでいるホストファミリーの親戚とも会うことができ良かったです。一度にたくさんのクリスマスプレゼントを用意するのは大変でしたが、喜んでもらえて嬉しかったです。





ホストシスター（姉）とハロウィン用のかぼちゃ彫りをしている時の写真です。

かぼちゃを彫ったのは久しぶりだったので楽しかったです。また、すごく個性的なかぼちゃをホストシスターが彫っていて面白かったです。